取扱説明書

CONTAX

T3 / T3 D

この取扱説明書は、Recycled Paper を使用しています。

お買い上げいただきありがとうございます。
このカメラは『持つ喜び、使う喜び、すばらしい写真を手にする喜び』の基本思想のもと、普段はごく簡単に気軽に撮影ができ、ここぞというときには撮影意図に合わせた撮影ができるカメラです。
ピント合わせはオートフォーカス／マニュアルフォーカス、露出はプログラムオート／絞り優先オートが切り替え可能、さらに露出補正やロングタイムモードおよびフォーカスロックボタンを搭載した35mmレンズシャッター式カメラです。

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取り扱いでお使いください。

このカメラは標準撮影機能以外に特別にセットできる“カスタム機能”を搭載しています。詳しくはP53をご覧ください。

本文中の“CF”マークはカスタム機能で設定できる項目です。

目次

安全に関する表示について

この取扱説明書では、このカメラを安全に使用していただくために、次のような表示をしています。内容をよくお読みいただき、正しく使用してください。

注意	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定されることを示します。

警告	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

取り扱い上のご注意

〈カメラ使用上のご注意〉

- このカメラは防水機構になっていませんので、雨天や水中では使用できません。万一水にぬれてしまったときは早めに当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。
- 撮影レンズ、測距窓、測光窓などを指紋などで汚すとカメラの精度に影響を及ぼしますので充分注意してください。もし汚れた場合はむやみに拭かず、セーム皮や市販の眼鏡拭き用紙などで軽く拭く程度にしてください。また、ゴミやホコリはブロアーで吹き飛ばすかレンズ刷毛で払うようにしてください。
- 本体の汚れを落とすときは、柔らかな布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は本体破損の原因になりますので、絶対に使用しないでください。
- レンズの鏡胴（繰り出し部分）には無理な力を加えないでください。故障の原因になります。
- カメラを落下させたときは、外観に異常がなくても、内部が破損していたり、ずれたりしている場合があります。必ず当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。

⚠注意

- 海岸やほこりの多い所での撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は金属を腐食し電子回路の断線・ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。また砂ぼこりは内部機構の作動不良を起こします。
- 寒いところから急に暖かい室内に持ち込むと、レンズがくもることがあります。しばらくするとくもりは消えますが、繰り返し行うと内部に水滴が生じます。水滴は電子回路の断線・ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。急激な温度変化はできるだけ避けてください。
- 直接日光の当たる場所に放置しないでください。太陽光が近くの物に結像すると破損や火災の原因になります。メインスイッチを“⊖”にする、または直射日光を避けて保管してください。
- カメラは精密な電子機器です。電子回路の断線による発煙・発火や機構の破損の原因となる落下や衝撃は避けてください。
- **海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてから使用してください。また、予備の電池を携行してください。**

⚠警告

- カメラや電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、速やかに電池を取り出してください。火災や火傷の原因となります。（電池を取り出す際、火傷には十分ご注意ください。）
- 水などが直接かかる場所や湿気の多い場所、または濡れた手で本機を使用しないでください。感電や電子回路のショート、発熱、発煙、発火、腐食による故障の原因となります。（雨天、降雪中、海岸、水辺などでの使用は特に注意してください）。
- 引火性ガスの発生するような場所では使用しないでください。発火事故の原因になります。
- 本機を分解・改造しないでください。高電圧がかかり感電する恐れがあります。

⚠警告	● 本機内部には高電圧回路が組み込まれています。落下などにより破損したとき、内部には絶対に手を触れないでください。感電する危険性があります。 ● ストロボ撮影時、ストロボを人の目（とくに乳幼児）に近づけて、撮影しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。 ● 本機を幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。また、幼児・子供の近くで使用するときは、細心の注意を払い、不用意に本機から離れないでください。幼児・子供には安全警告・注意の内容が理解できませんし、加えて以下のような事故の恐れがあります。 　● 本機を落としたり、倒したりしてケガをする。 　● 誤ってストラップを首に巻き付け窒息を起こす。 ● カメラで太陽や強い光源を直接見ないでください。視力障害を起こす危険性があります。 ● 移動しながらの撮影はおやめください。特にファインダーを覗きながら移動すると事故の原因になります。 ● 撮影時は被写体に気をとられすぎずに周囲の状況にも充分注意をはらってください。 ● ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。

〈カメラの保管について〉

- 暑い場所（夏の海辺、直射日光下の車内など）に長時間おいておくと、フィルムや電池の性能を低下させ、カメラにも悪影響を及ぼしますので放置しないでください。
- カメラを長期間使わないときは電池を取り出しておいてください。電池の液漏れなどによる事故を防ぎます。

	● カメラは湿気やほこりのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱うところを避け、風通しのよいところに保管してください。電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。

〈カメラが作動しなくなったとき〉

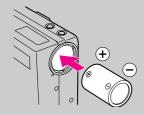
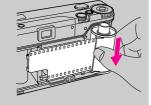
このカメラは、外部の強力な静電気等に対して、極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。この時には、カメラ電源をOFFにして一度電池を取り出します。カメラ電源をON－OFFし、表示パネルの表示が消えた後再度入れ直してから、ご使用ください。

〈電池取り扱い上のご注意〉

- 電池は一般に、低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地での使用の前後はカメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温してください。なお低温のため性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- 電池の＋－極が汗や油などで汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾布でよく拭いてから使用してください。
- 長期の旅行などには、予備の電池を用意してください。
- 電池の＋－を間違えて入れるとカメラは作動しません。

注意	● 金属製のピンセットのような導電性のあるもので電極に触れないでください。電池の消耗を早めるだけでなくショートして危険です。

警告	● 電池を廃棄する場合は、接点にテープを貼るなど絶縁してください。廃棄後他の金属と接触すると、破裂、発火の原因となります。 ● 次のようなことは絶対にしないでください。電池が破裂し火災、けがや周囲を汚損する原因となります。 ① このカメラで指定されている電池以外は、使用しないでください。 ② 電池の極性（＋と－）を逆に入れないでください。 ③ 電池を火の中に入れたり、充電ショート、分解、加熱は絶対にしないでください。 ④ CR2（3Ｖリチウム電池）は充電禁止です。絶対に充電しないでください。 ● 電池は幼児の手の届かないところに置いてください。万一電池を飲み込んだ場合、電池が壊れて電池の液で胃、腸などが損傷する恐れがありますので、直ちに医師と相談してください。

1 電池を入れます。(P16)

2 フィルムを入れます。(P22)

3 メインスイッチを“P”にします。(P27)

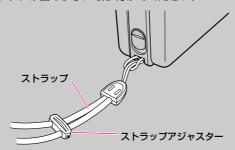
4 撮影します。(P28)

撮影が終了したら

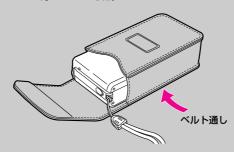
5 フィルムを巻き戻し後、取りだします。(P24)

ストラップの取り付けかたとカメラケース

ストラップ（付属品）

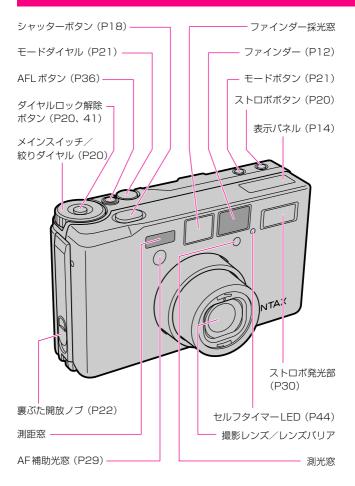
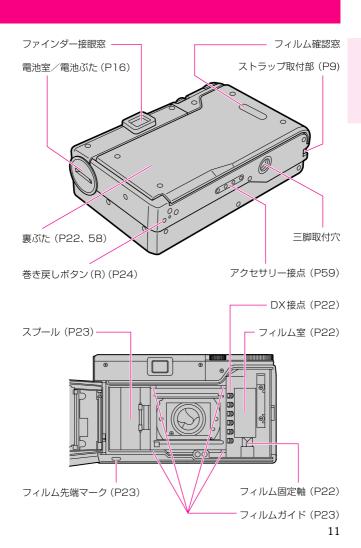
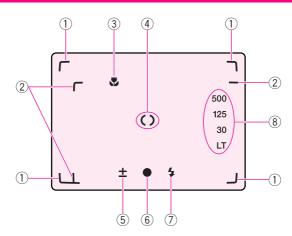
ストラップは図のように取り付けてください。

● ストラップアジャスターは、電池ぶた開けやフィルムの途中巻き戻しにご利用いただけます。

カメラケース（付属品、牛革製）

データバック付カメラを収納することができます。

● ケースをベルトに取り付けて使用する時、カメラ出し入れの際の落下にご注意ください。

各部の名称

シャッターボタン（P18）
モードダイヤル（P21）
AFL ボタン（P36）
ダイヤルロック解除ボタン（P20、41）
メインスイッチ／絞りダイヤル（P20）
ファインダー採光窓
ファインダー（P12）
モードボタン（P21）
ストロボボタン（P20）
表示パネル（P14）
NTAX
ストロボ発光部（P30）
裏ぶた開放ノブ（P22）
測距窓
AF 補助光窓（P29）
セルフタイマーLED（P44）
撮影レンズ／レンズバリア
測光窓

ファインダー接眼窓
電池室／電池ぶた（P16）
フィルム確認窓
ストラップ取付部（P9）
裏ぶた（P22、58）
三脚取付穴
巻き戻しボタン（R）（P24）
アクセサリー接点（P59）
DX 接点（P22）
スプール（P23）
フィルム室（P22）
フィルム先端マーク（P23）
フィルム固定軸（P22）
フィルムガイド（P23）

①撮影範囲枠、②近接撮影範囲枠及び④フォーカスフレームは常時表示されていますが、他の表示は次の操作をした時に表示され、8秒間表示したあと自動的に消える省電設計になっています。

1）カメラ電源を“ON”にしたとき。

2）カメラ電源“ON”の状態で、シャッターボタンを半押ししたとき。“ϟ”や“AFL”ボタンを押したときも表示されます。

① **撮影範囲枠**

通常の撮影では、この枠内で見える範囲が写ります。（P28）

② **近接撮影範囲枠**

撮影距離が約0.8m〜0.35mのときはこの枠の範囲内に被写体を入れてください。この枠の範囲が写ります。

③ **近接撮影マーク“🌷”**

点灯：撮影距離が約 0.8m〜0.35m のとき

点滅：被写体との距離が近すぎます。（撮影距離範囲外）

④ **フォーカスフレーム**

ピント合わせを行う範囲の目安です。(P28)

⑤ **露出補正マーク“±”**

露出補正を設定しているとき点灯します。（P42）

（ファインダー内表示図は説明のための全情報を表示したもので、実際の表示とは異なります。）

⑥ フォーカス表示（測距状況を知らせます。）“●”

〈オートフォーカス時〉

点灯　：ピントが合っています。
速い点滅(4 回／秒)　：ピント合わせができません。
遅い点滅(1 回／秒)　：AFL ボタンによるフォーカスロック中

〈マニュアルフォーカス時〉

遅い点滅(1 回／秒)　：マニュアルフォーカス撮影距離設定中

⑦ ストロボマーク “ϟ”

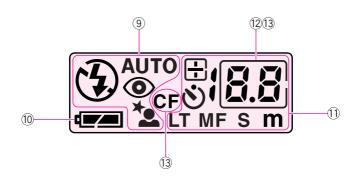
点灯　：ストロボが発光します。
速い点滅(4 回／秒)　：内蔵ストロボ撮影距離範囲外警告
（露出アンダーになります。）
遅い点滅(1 回／秒)　：ストロボ充電中

⑧ シャッタースピード

シャッタースピード表示は次のことを意味します。

ファインダー内表示	シャッタースピード
500 点滅	露出オーバーになります。
500 点灯	1/1200 秒 〜 1/350 秒
500 と 125 点灯	〜 1/180 秒
125 点灯	〜 1/90 秒
125 と 30 点灯	〜 1/45 秒
30 点灯	〜 1/20 秒
LT 点灯	〜 16 秒
LT 点滅	ロングタイムモード(P46)設定中

表示パネル

（表示パネル図は説明のための全情報を表示したもので、実際の表示とは異なります。）

⑨ ストロボモード（P20、30）

自動発光モード：“ AUTO ”
赤目軽減自動発光モード：“ AUTO ”
発光禁止モード：“ ”
強制発光モード：“ ”
夜景ポートレートモード：“ AUTO ”

⑩ 電池残量表示（P17）

⑪ 次の各モード表示及び設定値表示（P42～50）

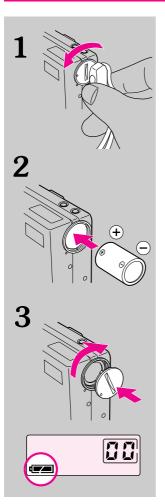
露出補正モード：“ ” または “ ” 及び補正値
セルフタイマーモード：“ ” 及び設定時間
ロングタイムモード：LT 及び設定時間
フォーカス設定モード：AF または MF 及び設定距離

⑫ フィルムカウンター

（セルフタイマーの残り時間、ロングタイム設定の残り時間も表示します。）

⑬ カスタムファンクションモード：CF 及び設定項目（例 1A）（P53）

撮影前の準備

1. 電池の入れかた

1 電池ぶたを開けます。

ストラップアジャスターを利用し、電池ぶたの“・”とカメラの“・”をあわせて開けます。

2 新しい電池を入れます。

電池室内の表示に従って電池を正しい向きにいれます。
電池は3Vリチウム電池（CR2）1個を使用します。

3 電池ぶたの“・”とカメラの“・”を合わせてはめこみます。
電池ぶたを元通り閉めます。

〈バッテリーチェック〉

電池を入れた後、カメラを一度作動させてください。表示パネルに“▭”（電池残量表示）が表示されます。

電池残量表示

電池の容量は充分です。

新しい電池を準備してください。

（点滅）

電池交換してください。

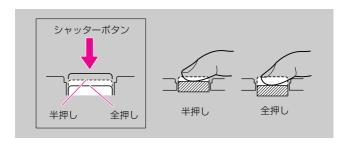
（点滅）

電池容量がありません。

〈電池の交換時期〉

表示パネルに“▭”マークが点滅したら、電池交換の時期です。カメラ電源を“OFF”にしてから新しい電池と交換してください。

- “▭”マークが点滅してからも撮影はできますが、すみやかに電池交換してください。電池容量が使用限界を超えると、表示パネルの“▭”マークが点滅し、カメラは作動しなくなります。
- 電池によってはその性質上、装着時一時的に電圧が低下し、“▭”マークが点滅することがあります。
  新品電池装着後すぐに“▭”マークが点滅した場合は、一度メインスイッチを“OFF”にし再度ONにしてください。この操作を行って“▭”マークが点灯したらそのままお使いいただけます。

2. シャッターボタンの押しかた

シャッターボタンは２段階押せるようになっています。１段目まで押すことを“半押し”といい、半押しからさらに２段目まで押すことを“全押し”といいます。シャッターボタンはそれぞれの位置で次のような働きをします。

半押し

ピント合わせと露出の測定（測光）を行います。

全押し

レンズがピント位置まで繰り出され、シャッターが切れて撮影が行われます。撮影後、フィルムを巻き上げます。

＊ シャッターボタンはカメラぶれを起こさないように人差し指の腹で軽く押してください。またカメラの構えかた（P19）も必ずお読みください。

CF 半押し時、レンズがピント位置まで繰り出されるように変更することができます。（P53）

3. カメラの構えかた

①脇をしめてカメラを安定させる。
②写す瞬間に呼吸を止める。
③手にあまり力を入れず、静かにシャッターボタンを押す。

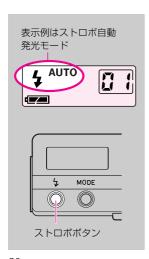
ピントが合った美しい写真を撮るためには、カメラをしっかり構えることが大切です。ピントの悪い写真の多くはカメラぶれが原因です。
カメラは横位置の他、状況により縦位置で構えますが、いずれも自分にあった姿勢を研究してください。建物や木立などを利用して体やカメラを支えることも効果的な方法です。

- 撮影レンズ、測距窓、測光窓、AF補助光窓、ストロボ発光部等に指やストラップがかからないようにご注意ください。
- 縦位置のときはストロボ発光部が上になるようにすると自然光と同じ様な感じの写真になります。

構えた時にレンズ鏡胴にさわらないでください。

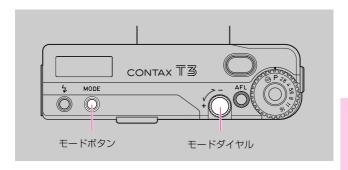
4. メインスイッチ／絞りダイヤルについて

メインスイッチ／絞りダイヤルはカメラ電源のON/OFFと絞り優先オート撮影時の絞り値のセットに使用します。
“⊖”→“P”にするとカメラ電源がON になりプログラムオート撮影モード（P27、39）になります。
また、ダイヤルロック解除ボタンを押しながら“2.8～16”にすると絞り優先オート撮影モード（P40）になります。

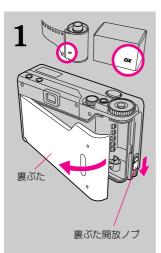
5. ストロボボタンについて

ストロボモードの切り替えを行います。
カメラ電源ON時、ストロボボタンを押すごとに次の順で切り替わり表示パネルに表示されます。（P30）

① 自動発光モード “ϟ AUTO”
② 赤目軽減自動発光モード “ϟ AUTO ◉”
③ 発光禁止モード “⊘ϟ”
④ 強制発光モード “ϟ”
⑤ 夜景ポートレートモード “ϟ AUTO ◉ ★”

- カメラ電源ON時、最初にセットされるストロボモードを変更することができます。（P34）

6. モードボタンとモードダイヤルについて

モードボタンとモードダイヤルで多彩な撮影テクニックが利用できます。詳しくは（P42～50）をご覧ください。
モードボタンで以下のモードの切り替えを行い、モードダイヤルで設定値の切り替えを行います。

切り替え順序	表示	モード内容	設定内容
①	⊞または⊟	露出補正（P42）	補正値：－2EV～＋2EV
②	(セルフタイマー表示)	セルフタイマー撮影（P44）	時間：10秒または2秒
③	LT	ロングタイム撮影（P46）	時間：1秒～180秒
④	AF または MF	フォーカスモードの切替と距離設定	距離：0,4m～∞、AF

7. フィルムの入れかた

フィルムは、DX マークの付いたフィルムをご使用ください。フィルム感度は自動的にカメラがセットします。

- ＤＸ マークのないフィルムはISO100にセットされます。

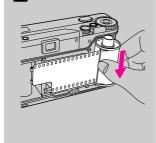
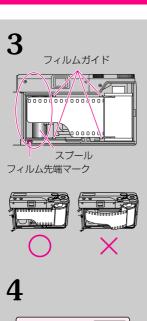
1 裏ぶたを開けます。

裏ぶた開放ノブを下げ、裏ぶたを開けます。

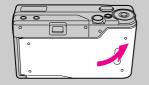
- フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行ってください。

2 フィルムを入れます。

図のようにフィルムを斜め上から差し込むようにして入れます。

- DX 接点はむやみに触れたり、汚したりしないように注意してください。

3 フィルムの先端をオレンジ色の“▬”(フィルム先端マーク)まで引き出しそのままスプールの上に置きます。

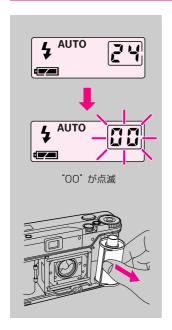
このとき図のようにフィルムが浮き上がらないようにしてください。

- フィルムの先が長く出ている場合は、長さを調節してください。

4 裏ぶたを確実に閉めます。

フィルムが自動的に空送りされ、フィルムカウンターが“01”になって停止します。

フィルムカウンターが“00”で点滅した場合は、フィルムが正しく送られていません。また、シャッターも切れません。裏ぶたを開け、もう一度入れ直してください。

8. フィルムの取り出しかた

“00” が点滅

フィルムを全部撮影し終えると自動的に巻き戻しが始まります。

巻き戻し中はフィルムカウンターが減算表示し、巻き戻しが終了すると、モーターが停止しカウンターの “00” 表示が点滅します。巻き戻し終了後、裏ぶたを開けてフィルムを取り出してください。

巻き戻し終了するまで裏ぶたは絶対に開けないでください。

- 巻き戻し終了後、一度裏ぶたを開けるまでカメラは作動しません。
- フィルムを途中で巻き戻すときは巻き戻しボタン “R” を付属のストラップアジャスターの先端または先の細いもので押してください。(針などの鋭く尖ったものでは押さないでください。)

CF 巻き戻し完了時、フィルム先端をパトローネ外に残すこともできます。(P53)

9. 写真の基礎知識

〈絞り値〉

レンズに組み込まれている絞りは、レンズを通りフィルムにあたる光の量を、開口部を拡げたり縮めたりして調節します。この開口部の大きさを絞り値と言います。
絞り値が大きくなるほど開口部は小さくなります。

〈シャッタースピード〉

カメラ本体に組み込まれているシャッターは、フィルムにあたる光の量を、シャッターが開いている時間の長さで調節します。このシャッターを開いている時間の長さをシャッタースピードと言います。

〈露出〉

フィルムに光をあてること。
絞り値とシャッタースピードにより、フィルムにあてる光の量を調節します。

〈フィルム感度〉(ISO 値)

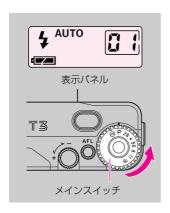
フィルム感度は、どの程度の光までフィルムが感応するかをISO（国際標準化機構）で定められた数値で表しています。
ISO 値が小さいほど光に対する感度が低くなります。
ISO値が大きいほど光に対する感度は高くなり、少ない光の量で感応します。

〈被写界深度〉

レンズの一般的性質として、ある被写体にピントを合わせたとき、被写体自身が鮮明に写るだけでなく、その前後にも鮮明に写る範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。同じレンズでの被写界深度は次のように変化します。

① 絞りを絞り込むほど被写界深度が深く（広く）、開放にするほど浅く（狭く） なります。
② 被写体との距離が遠いほど被写界深度が深く、近いほど浅くなります。
③ ピントを合わせた被写体の後方に深く、前方に浅くなります。

基本的な撮影

1. 電源を入れます

メインスイッチを回し“⊖”→“P”にします。

カメラの電源が ON になり、自動的にレンズバリアが開き、レンズが繰り出されて撮影ができる状態になります。この時カメラは次のモードにセットされます。

1. ピント合わせ→オートフォーカス撮影モード

シャッターボタン半押しでカメラが自動的ピント合わせを行います。

2. 露出→プログラムオート“P”

あらかじめプログラムされている絞りとシャッタースピードの組み合わせの中から、被写体の明るさに適した組み合わせをカメラが自動的に選びます。スナップ撮影など気軽に撮影することができます。

3. ストロボモード→自動発光モード“ϟ AUTO”

暗いところでの撮影や逆光のときストロボが自動的に発光します。シャッターボタン半押し時、ファインダー内“ϟ”の点灯は、ストロボが発光するお知らせです。

● カメラをすぐに使わないときは、不用意にシャッターが切れるのを防ぐためにカメラの電源をOFFにしてください。

1 被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。

ピント合わせが行われるとファインダー内“●”が点灯します。またその時のシャッタースピードが表示されます。

- “🌷”マーク点灯時は近接撮影範囲枠内に被写体を入れて撮影してください。（P12）

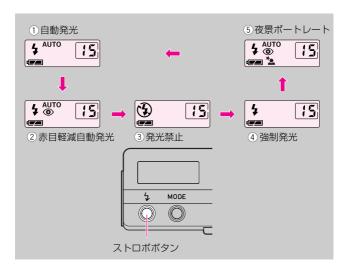
2 そのまま静かにシャッターボタンを全押しして撮影します。

このカメラは外部パッシブ方式のマルチフォーカスを搭載していますので、被写体がフォーカスフレームから多少はずれていてもピント合わせができます。

- シャッターボタン半押し時、“⚡” が点灯するときはストロボが発光します。
  また “⚡” が速い点滅（4回／秒）する時はストロボ撮影距離範囲外警告です。P33の表を参考に被写体まで近づき、点滅が点灯になるようにして撮影してください。
- シャッターボタン半押し時、“🌷”が点滅しているときは被写体との距離が近すぎますのでシャッターが切れません。0.35m以上の距離で撮影してください。
- ピント合わせができないときは、“●” が速い点滅をし、シャッターが切れません。等距離にある別の被写体でフォーカスロック（P35,36）して撮影してください。
- ファインダー内シャッタースピードが “500” で点滅したときは露出連動範囲外になる表示で、露出オーバーになります。

AF 補助光について

被写体が暗い場合やコントラストが低い場合は、A F 補助光窓から赤外線を発光して被写体を照射し、オートフォーカスの精度を高める機構になっています。
AF 補助光の有効距離は約 4.7m です。

3. ストロボ撮影

写したいものや撮影場所に応じて、ストロボを発光させたり、発光を止めたりすることができます。

カメラ電源ＯＮ時、ストロボボタンを押すごとに次の順に切り替わり、表示パネルに表示されます。希望するモードにして撮影してください。

① 自動発光モード →② 赤目軽減自動発光モード →③ 発光禁止モード →④ 強制発光モード →⑤ 夜景ポートレートモード

カメラの電源をONにしたときに最初にセットされるストロボモードを、変更することができます。常用されるストロボモードにセットしておくと便利です。詳しくはP34“ホームポジション”をご覧ください。

〈1. 自動発光モード〉“ϟ AUTO”

暗いところの撮影で、シャッタースピードが1/60秒より遅くなる明るさのときは、自動的にストロボ撮影になります。
この時シャッタースピードは 1/60 秒になります。

- ストロボが発光するときはファインダー内の“ϟ”が点灯します。

〈2. 赤目軽減自動発光モード〉“ϟ AUTO ◉”

暗いところで人物をストロボ撮影すると、まれに瞳が赤く写る（赤目現象）ことがあります。この赤目現象を軽減させる撮影方法です。

- このモードではストロボが約0.7秒間隔で 2 回発光し、2回目の発光のときシャッターが切れます。1 回目と2 回目の間にファインダー内“●”とセルフタイマーLEDが点滅します。1 回目の発光後カメラを動かしたり、人物が動かないように注意してください。

〈3. 発光禁止モード〉“ϟ̸”

夕暮れや室内のムードを活かした写真を撮るなど、ストロボを発光させずに撮影したいときはこのモードにセットしてください。被写体の明るさに露出を決定しますので自然な感じの写真が撮れます。

- 暗いときは遅いシャッタースピードになります。（最長 16 秒）
  カメラぶれ防止のため三脚をご使用ください。
- このモードのときは、暗くても“ϟ”は表示しません。

〈4. 強制発光モード〉“ϟ”

常にストロボを発光させるモードです。
屋外の撮影時に、たとえば強い日差しの下や逆光下でそのまま人物を撮影すると、人物は暗くなりがちです。このようなときは、強制発光モードにすると人物も背景もきれいに描写することができます。（日中シンクロ撮影）

- 被写体が暗く、適正なシャッタースピードが 1/60 秒以下になるときは、シャッタースピードは 1/60 秒にセットされます。

〈5. 夜景ポートレートモード〉"⚡AUTO"

夕景や夜景など暗いところで背景を活かした人物撮影を行うときはこのモードにセットしてください。人物も背景もきれいに描写することができます。
赤目軽減自動発光モードの機能に加えて、暗いところでは背景の明るさに応じて最長 1 秒までシャッタースピードが遅くなります。（スローシンクロ撮影）

- スローシンクロ撮影ではシャッタースピードが遅くなりますので、カメラぶれ防止のために三脚をご使用ください。

逆光ストロボ自動発光
このカメラは自動発光モード、赤目軽減自動発光モードおよび夜景ポートレートモードのとき、画面中央に被写体がある逆光下での撮影では、被写体がきれいに写るように明るさによって自動的にストロボが発光することがあります。

- ストロボが発光するときはファインダー内の"⚡"が点灯します。

ストロボ撮影を多用される場合には撮影範囲の広いISO400フィルムのご使用をおすすめします。（P33 参照）

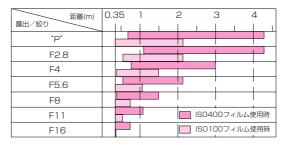
ストロボ撮影時のご注意

● ファインダー内“ϟ”の表示は次のお知らせです。

点灯：ストロボが発光します。／ストロボ撮影距離範囲内です。
（シャッターボタン半押し時）

遅い点滅（1回／秒）：ストロボ充電中。（シャッターが切れません。）

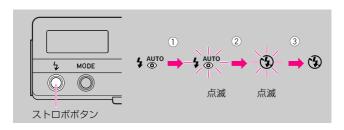
速い点滅（4回／秒）：ストロボ撮影距離範囲外警告です。
（シャッターボタン半押し時）
被写体が遠すぎてストロボ光が届かず露出アンダーになります。
被写体に近づくか絞りを開いて、点滅が点灯になるようにして撮影してください。リバーサルフィルム使用時はさらに撮影距離範囲が狭くなりますので、次の『ストロボ撮影距離範囲』の範囲内で撮影してください。

〈ストロボ撮影距離範囲〉（リバーサルフィルム使用時）

絞り優先オート時は、撮影距離に応じてストロボの光量が変化します。プログラムオート“P”時は、撮影距離に応じて絞りが変わるフラッシュマチック方式になります。**ストロボ撮影のときは、“P”にセットすることをおすすめします。絞りを絞り込んでストロボ撮影すると、撮影距離が短くなります。**

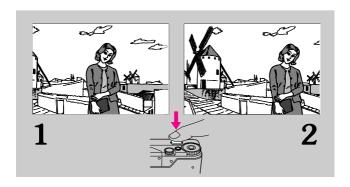
● 内蔵ストロボの撮影距離範囲よりもさらに遠距離でのストロボ撮影を行いたい場合はCONTAX フラッシュアダプターSA-2（別売）を利用してTLA200ストロボをご使用ください。（P59）

〈ホームポジション〉

カメラ電源をＯＮにしたときに最初にセットされるストロボモード（ホームポジション）を変更することができます。

“Ⓕ”や“ϟ”など常用されるストロボモードにセットしておくと便利です。

① カメラ電源 ON 時、ストロボボタンをストロボマークが点滅するまで押し続けます。（約２秒）
② 点滅したら一旦ボタンから指を離し、再度ボタンを押して希望のモードを選びます。
③ 約８秒で自動的に点滅から点灯に変わりセットが完了します。

● シャッターボタン半押しまたは、カメラ電源 OFF でもセットされます。

4. フォーカスロック

シャッターボタンを半押しすると、その時のピントが固定されます。(フォーカスロック)。半押ししている間フォーカスロックは継続していますので、カメラの向きを変えてもピントは変わりません。
構図によって被写体がフォーカスフレームから大きくはずれるときは、フォーカスロックを利用して撮影してください。

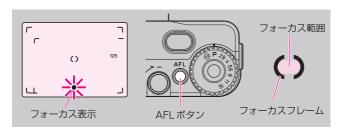
1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。

ピント合わせが行われファインダー内"●"が点灯しピントが固定します。

- 表示パネルにはフォーカスロックされた距離が表示されます。距離表示はシャッターを切った後約2秒間表示されます。
- ピントと同時に露出も固定されます。(AEロック)
- "●"が速い点滅(4回/秒)するときはピント合わせができません。等距離にある別の被写体を利用してフォーカスロックしてください。

2 シャッターボタンを半押ししたまま写したい構図にカメラを向け、そのままシャッターボタンを全押しして撮影します。

- フォーカスロックはシャッターボタンから指を離すと解除されます。

5. AFL ボタンの利用

AFL ボタンを利用してフォーカスロックをすることができます。シャッターボタンはシャッターを切る時のみに使用しますので、シャッターチャンスに専念することができます。
その時のフォーカス範囲はほぼフォーカスフレーム部分になります。（スポット・AF）

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、"●" が遅い点滅（1 回／秒）するまで AFL ボタンを押し続けます。（約 1.5 秒以上）

"●" が点滅したらフォーカスロック完了です。AFL ボタンから指を離してください。

- 表示パネルにはフォーカスロックされた距離が表示されます。
- "●" が速い点滅（4 回 / 秒）するときはピント合わせができません。等距離にある別の被写体を利用してフォーカスロックしてください。

再度 AFL ボタンを押すと、フォーカスロックは解除されます。

2 写したい構図にカメラを戻し、シャッターボタンを全押しして撮影します。

- 撮影が終了すると、フォーカスロックは解除されます。

CF カメラ電源OFFまでフォーカスロックを継続することができます。（P54）

CF ピントと同時に露出も固定することができます。（P53）

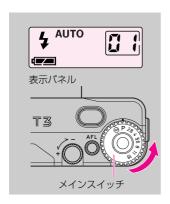
〈誤測距および測距不能になりやすい被写体〉

次のような被写体はピントが合いにくいのでフォーカスロックを利用して、等距離にある別の被写体に一度ピントを合わせて撮影しましょう。

- 低コントラストの被写体。
- 繰り返し同じパターンのもの
- 暗い被写体。
- 水平線など横線だけの被写体。
- 非常に明るい被写体や光沢のある被写体。
- フォーカスフレームやその周辺に、強い光源がある場合、および太陽光など強い光源があり画面内に入る場合。
- フォーカスフレーム内に極度に距離の違う被写体が共存する場合。
- 高速で移動する被写体。

撮影のテクニック

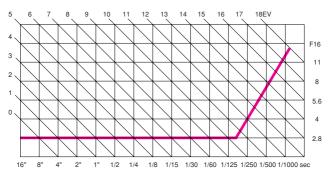
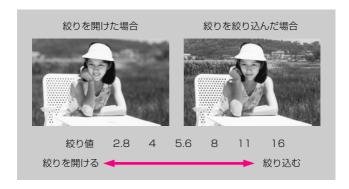
1. プログラムオート撮影

あらかじめプログラムされている絞りとシャッタースピードの組み合わせの中から、被写体の明るさに適した組み合わせをカメラが自動的に選びます。スナップ撮影など気軽に撮影することができます。

1 **メインスイッチを回し“⊖”→“P”にします。**

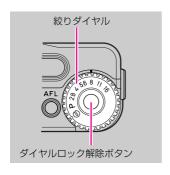
カメラの電源がONになり、プログラムオート撮影モードになります。

2 **撮影します。**

〈プログラムオート制御図〉

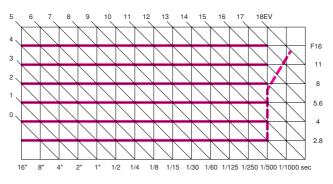
プログラムオートでの絞りとシャッタースピードの組み合わせは図のようになります。

2. 絞り優先オート撮影

レンズの一般的な性質として、ある被写体にピントを合わせたとき、被写体自身が鮮明に写るだけでなく、その前後にも鮮明に写る範囲（被写界深度といいます。P25 参照）があります。
絞りを絞り込むほど鮮明に写る範囲が広くなり、開放にするほど狭くなります。
この性質を利用して、被写体も背景も鮮明に写したり、あるいは被写体のみ鮮明に背景はぼかして写すことができます。作画意図に合わせて絞り値をセットしてください。

絞り優先オート撮影は、あらかじめ絞りをセットすると、被写体の明るさに応じてシャッタースピードを自動的にコントロールします。

- ファインダーには絞りに応じて自動セットされたシャッタースピードが表示されます。

1 ダイヤルロック解除ボタンを押しながら、絞りダイヤルを回して絞り値をセットします。

2 撮影します。

〈絞り優先オート制御図〉

絞り優先オートでの絞りとシャッタースピードの組み合わせは図のようになります。

＊ 絞り連動範囲より明るい場合は自動的にプログラムシフトします。

● **室内や夜景などの暗い被写体や、ストロボを必要とする被写体では、“P”にするか絞りをF2.8にして撮影することをおすすめします。**

3. 露出補正

撮影のとき、主要被写体とその背景に極端な明暗差があるために、そのままでは主要被写体に適正露出が得られない場合に露出の補正を行います。また意図的に露出オーバー、アンダーの写真を撮りたいときにも利用します。

補正値は＋2EV～－2EVまでの範囲内で1/3EVごとにセットすることができます。ファインダー内には“±”マークが点灯します。

1 **カメラ電源ON時、モードボタンを1回押して表示パネルに露出補正モードを表示します。**

2 **モードダイヤルを回して希望する補正値をセットします。**

3 **そのまま撮影します。**

撮影が終了すると露出補正は解除されます。

- 補正値設定後、撮影しないで解除するときは1～2の手順で補正値を“0.0”にセットしてください。
- 補正値設定後そのまま8秒間放置すると、“⊞”または“⊟”が追加された通常の表示に戻ります。

CF 露出補正設定の継続時間を変更することができます。（P53）

CF 補正値を1/2EVごとにセットすることができます。（P53）

＋補正

補正なし

逆光などのときは･･･
“＋0.3EV” ～ “＋2EV” の範囲で補正します。

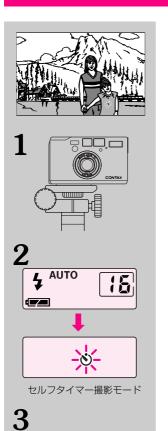
逆光や明るい空、海をバックにした人物、または窓辺の人物などのように明るい背景が撮影画面に占める割合が大きい場合､人物は露出アンダーになり、シルエットのように暗くなります。このようなときは露出を、＋0.3EV～＋2EVの範囲で補正して、露出を多く与えます。

－補正

補正なし

暗い背景などのときは･･･
“－0.3EV” ～ “－2EV” の範囲で補正します。

スポットライトに照らし出された人物などのように､暗い背景が撮影画面に占める割合が大きい場合､人物は露出オーバーになり白っぽくなります。このようなときは露出を、－0.3EV～－2EVの範囲で補正して、露出を少なくして撮影します。

4. セルフタイマー撮影

セルフタイマー撮影モード

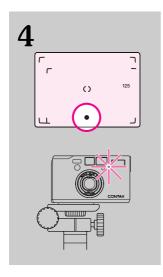
セルフタイマー撮影は、10秒と2秒の2種類があります。記念撮影など、自分も一緒に写りたいときは“10秒”を、暗いところでの撮影などでのシャッター押し時のカメラぶれ防止には“2秒”を利用します。

1 カメラを三脚などで固定します。

2 カメラ電源をONにし、モードボタン2回を押して表示パネルにセルフタイマー撮影モードを表示します。

3 モードダイヤルで“10”または“02”を選びます。

モードダイヤルを回すと次のように設定が変わります。

秒表示なし　10秒　2秒

4 シャッターボタンを半押しし、ファインダー内フォーカス表示の点灯を確認してからシャッターボタンを全押ししてください。

5 セルフタイマーが作動し、10秒または2秒後にシャッターが切れます。

撮影が終了するとセルフタイマー撮影は解除されます。

- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、モードボタンを押すかカメラ電源をOFFにしてください。
- セルフタイマー作動中フィルムカウンターは、シャッターが切れるまでの残り時間（秒）を示す表示になり、セルフタイマーLEDが点滅します。
- セルフタイマースタート時に露出とピントが固定されます。
- セルフタイマー作動中にシャッターボタンを押すと、セルフタイマー作動をやり直します。
- セルフタイマー設定モードを“秒表示なし”にすると、セルフタイマーモードは解除されます。
- ストロボ充電中はセルフタイマーをスタートすることはできません。

5. ロングタイム撮影

1 秒から 180 秒までの長時間撮影ができます。花火や星空、あるいは夜景などの撮影に便利です。

1 **カメラ電源ON時、ストロボモードを "⚡" にします。**

- ストロボを併用したい時はストロボが発光するモードを選んでください。スローシンクロ撮影になります。

2 **モードボタンを3回押して表示パネルにロングタイムモードを表示します。**

3 **モードダイヤルを回して希望のシャッタータイム（秒）をセットします。**

4 **そのまま撮影します。**

- 表示パネルにはシャッターが閉じるまでの残り時間が表示されます。

〈設定できるシャッタータイム（単位：秒）〉
01、1.5、02、03、04、06、08、10、15、20、30、45、60、90、120、180

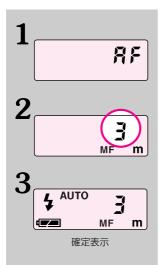
- 撮影が終了するとロングタイム撮影は解除されます。
- ストロボモードは希望のモードに戻してください。

- このモードはオート露出撮影にはなりません。
- 絞りダイヤルで絞りを設定してください。"P"にセットすると絞りは開放(F2.8)になります。
- ロングタイムモード設定後、撮影をしないで途中で解除するときは2～3の手順でシャッタータイムを"- -"にセットしてください。
- シャッタータイム設定後そのまま8秒間放置すると、"LT"が追加された通常の表示に戻ります。
- カメラぶれ防止のため三脚をご使用ください。
- セルフタイマーを併用すると、シャッターボタンを押す時のカメラ振れを防ぐことができます。

6. マニュアルフォーカス撮影

ピント位置を手動でセットすることができます。距離を固定しての定点撮影や、絞りを絞り込んで鮮明に写る範囲を広げてのスナップ撮影あるいはシャッターチャンスを優先した撮影（＊）ができます。

＊ このモードでは撮影レンズが繰り出された状態でセットされますので、シャッターボタン押しからシャッターが切れるまでの時間が短くなります。

確定表示

表示パネルにはフィルムカウンターに代わり確定した撮影距離がそのまま表示されます。

〈設定できる距離（単位：m）〉
0.4、0.5、0.6、0.7、0.8、0.9、1、1.1、1.3、1.5、2、3、5、10、InF

1 カメラ電源ON時、モードボタンを４回押して表示パネルにフォーカス設定モードを表示します。

表示パネルには“AF”または“MF”が表示されます。

2 モードダイヤルを回して希望の撮影距離をセットします。

3 モードボタンを押すと撮影距離が確定し、レンズがピント位置まで繰り出されます。

一度設定するとカメラ電源“ON”中は同じ設定距離で続けて撮影することができます。

- シャッターボタン半押しまたは8秒間放置しても撮影距離が確定します。
- マニュアルフォーカス設定中はファインダー内“●”が点滅（1回／秒）します。

4 構図を決めて撮影します。

AF撮影に戻したいときは、“AFLボタン”を押してください。瞬時に切り替わります。

- 撮影距離は、次ページの被写界深度表（鮮明に写る範囲）を参考にをセットしてください。例えば、絞りをF8にして撮影距離を5mにセットすると2.44m～∞までピントの合った撮影ができます。
- フィルムカウンターは巻き上げ後2秒間表示され、再び設定された撮影距離の表示に戻ります。また、カメラ電源を“OFF”にするとフィルムカウンターを表示します。

設定中はレンズが繰り出された状態になっています。レンズ鏡胴をつかんだり、物にぶつけたりしないようご注意ください。ピントずれや破損の原因になります。設定後、操作しないで10分以上経過すると、破損防止のためにカメラ電源ON時の位置までレンズが戻ります。シャッターボタンを半押しするとまた設定位置までレンズが繰り出されます。

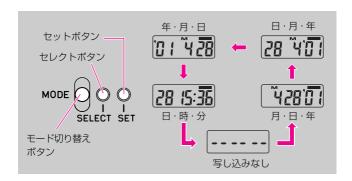
CF マニュアルフォーカス設定をカメラ電源“OFF”後も継続させることができます。（P54）

次ページへ続く

〈被写界深度表〉（単位・m）

セットした撮影距離と絞りに対しての鮮明に写る範囲です。

絞り値 / 撮影距離(m)	F2.8	F8	F16
0.4	0.39 ～ 0.41	0.38 ～ 0.43	0.36 ～ 0.46
0.5	0.49 ～ 0.52	0.46 ～ 0.55	0.43 ～ 0.60
0.6	0.58 ～ 0.62	0.54 ～ 0.67	0.50 ～ 0.77
0.7	0.67 ～ 0.73	0.62 ～ 0.80	0.56 ～ 0.95
0.8	0.76 ～ 0.84	0.70 ～ 0.94	0.62 ～ 1.15
0.9	0.85 ～ 0.96	0.77 ～ 1.09	0.67 ～ 1.38
1.0	0.94 ～ 1.07	0.84 ～ 1.24	0.72 ～ 1.65
1.1	1.02 ～ 1.19	0.91 ～ 1.40	0.77 ～ 1.95
1.3	1.19 ～ 1.43	1.03 ～ 1.76	0.86 ～ 2.74
1.5	1.36 ～ 1.68	1.15 ～ 2.15	0.94 ～ 3.88
2.0	1.75 ～ 2.34	1.42 ～ 3.41	1.11 ～ 11.9
3.0	2.46 ～ 3.85	1.85 ～ 8.12	1.34 ～ ∞
5.0	3.65 ～ 7.98	2.44 ～ ∞	1.62 ～ ∞
10.0	5.71 ～ 40.8	3.20 ～ ∞	1.92 ～ ∞
InF (∞)	13.2 ～ ∞	4.67 ～ ∞	2.35 ～ ∞

7. 日付・時刻の写し込み

データバック付カメラの場合は撮影時に、日付や時刻を自動的に写し込むことができます。

- データバックが付いていないカメラの場合は、別売の「CONTAX T3データバック」を取り付けてください。日付や時刻を写し込むことができます。
- データバック用電池は工場出荷時にセットされていますのでそのままご使用になれます。

① **写し込むモードを選びます。**

モード切り替えボタンを押すごとに、年・月・日⇒ 日・時・分⇒ ------(写し込みなし) ⇒ 月・日・年⇒ 日・月・年に表示が切り替わりますので、希望する表示を出してください。

② **シャッターボタンを押して撮影します。**

- 表示窓右上の"▬"マークが点滅して、表示が写し込まれたことを示します。
- 数字の上に出る"M"表示は月(Month)を表すマークで、写し込みはされません。
- 日付や時刻を写し込みたくないときは、------にして撮影します。
- 写し込みは写真の右下隅になります。写し込み位置の背景が白や黄色のように明るいときは、数字が読みにくくなることがあります。

次ページへ続く

〈日付・時刻の修正〉

日付け・時刻の修正は次のようにしてください。

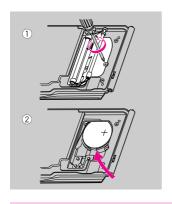
① **モード切り替えボタンを押して修正するデート表示を出します。**

② **セレクトボタンを押して修正する数字を点滅させます。**

③ **セットボタンを押して正しい値に修正します。**
（時刻表示で：が点滅している場合は秒合わせです。時報に合わせてセットボタンを押すと正確な時間合わせができます。）

④ **修正が終わったら数字の点滅が消えるまでセレクトボタンを押します。**

〈データバック用電池の交換について〉

データバック用電池は、長寿命のリチウム電池（CR2025）を採用しているため約３〜４年間は交換不要です。電池が消耗してくると日付けや時刻の写し込みが薄くなったり、液晶表示が正常な表示をしなくなります。この時は図のようにして電池を交換してください。

① **裏ぶたを開け、電池ぶたを固定している止めネジをはずし、ふたを開けます。**

② **新しい電池を＋側を表にして電池室内に入れ、ふたを元通りに閉め、固定してください。**

● 電池を交換した後は、必ず日付と時刻を合わせ直してください。

デート用電池（CR2025）は、特に幼児の手の届かない所に置いてください。万一電池を飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

8. カスタム機能について

このカメラには、次の表のように７項目の“カスタム機能”を搭載しています。お買い上げ時は標準的な機能（内容番号の標準設定“A”）にセットしてあります。（この取扱説明書では“A”の状態を説明しています。）カスタム機能を変更したい場合は『カスタム機能のセットのしかた』（P55）をご覧ください。

- カスタム機能をセットするとカメラの機能や操作手順が変わります。このページをよくお読みいただき、正しくご使用ください。

〈カスタム機能一覧表〉

内容番号 / 機能番号	標準設定	変更設定	
	(A)	(b)	(C)
CF 1：フィルム巻き戻し時のフィルム残り	1A：フィルムをパトローネ内にすべて巻き込む。	1b：フィルム先端をパトローネの外に残す。	
CF 2:レンズ繰り出し時期	2A：シャッターが切れる直前	2b：シャッターボタン半押し時	
CF 3：露出補正の継続時間	3A：1ショットのみ	3b：カメラ電源OFFまで	3C：設定解除まで
CF 4：露出補正幅	4A：1/3EV	4b：1/2EV	
CF 5：AFLボタンの機能	5A：フォーカスロックのみ	5b：フォーカスロック／AEロック	

次ページへ続く

内容番号 / 機能番号	標準設定	変更設定	
	(A)	(b)	(C)
CF 6：フォーカスロックの継続時間（AFLボタン）	6A：1ショットのみ	6b：カメラ電源OFFまで	
CF 7：マニュアルフォーカスの継続時間	7A：カメラ電源OFFまで	7b：設定解除まで	
CL：カスタム機能の初期化	カスタム機能（CF 1～CF 7）の内容がすべて標準設定になります。		

〈カスタム機能のセットのしかた〉

1 カメラ電源を“OFF”にし、ストロボボタンとモードボタンを、“CF”が表示されるまで同時に押し続けます。（約３秒以上）

2 モードダイヤルを回して“機能”を選びます。

3 モードボタンを押して“内容”を選びます。

4 シャッターボタンを押すとカスタム機能がセットされ、通常表示に戻ります。

- そのまま８秒間放置してもカスタム機能がセットされます。
- 点滅中にメインスイッチを“P”にしても、カスタム機能がセットされます。
- **CL（カスタム機能の初期化）は８秒放置してもセットできません。“CL”表示後メインスイッチを“P”にしてください。**

9. カスタム機能を利用した便利な撮影

次のような撮影を行いたい場合、カスタムファンクションを使うと便利です。

1.「フィルムを巻き戻したときに、フィルム先端部をパトローネの外に残したい」

➡CF1：1bを選択する。

2.「シャッタータイムラグを短くしたい」

➡CF2：2bを選択する。
シャッターボタン半押し時にレンズをピント位置まで繰り出します。

3.「露出補正を続けて撮影したい」

➡CF3で、露出補正の継続時間を変更することができます。
CF3：3Aを選択する。➡ 1ショットのみ
3bを選択する。➡ カメラ電源ON中（電源OFFで自動的に解除します）
3Cを選択する。➡ 設定解除まで。電源OFFしても露出補正を記憶しています。次に電源ONしたとき、続けて同じ補正値で撮影が行えます。

4.「露出補正の幅を変更したい」

➡CF4で、1/3EVステップと1/2EVステップの選択ができます。
CF4：4Aを選択する。➡ 1/3EVステップ
4bを選択する。➡ 1/2EVステップ

5.「AFLボタンでAEロックしたい」

➡CF5：5bを選択する。
AFLボタンでのフォーカスロックと同時にAEロックさせられます。

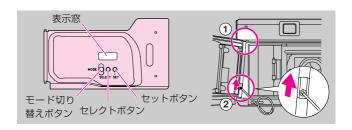
6.「AFLボタンでのフォーカスロックで続けて撮影したい」

➡CF6：6bを選択する。
カメラ電源OFFまで、フォーカスロックが継続します。

7.「設定解除するまで、マニュアルフォーカスを継続したい」

➡CF7：7bを選択する。
設定解除するまでマニュアルフォーカスが継続します。撮影途中で電源OFFしても、次の電源ON時にマニュアルフォーカス設定されている距離で撮影できます。

別売アクセサリー

1. CONTAX T3 データバック

カメラの裏ぶたと交換して装着するだけで、カメラボディと連動するクオーツ制御の液晶式データバックです。
オートデート機構により日付や時刻を画面内に自動的に写し込むことができます。

〈カメラへの取り付け〉

① **カメラに標準装備されている裏ぶたを開き、付属の金具で裏ぶた着脱ピンを押し上げながら取りはずします。**

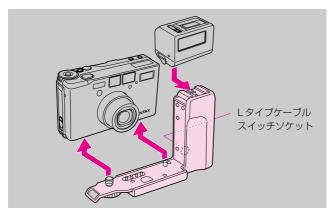
② **データバックの取り付け軸の上側をカメラの取り付け穴に差し込み、付属の金具で着脱ピンを押し上げながら下側の軸も取り付け穴に合わせます。これで取り付けは完了です。**

データバックの主な仕様

型式：液晶表示式クオーツ時計内蔵（オートカレンダー）
写し込み機能： 年・月・日／日・時・分／写し込みなし／
月・日・年／日・月・年
写し込み方法：シャッター作動に連動した自動写し込み
フィルム感度設定：自動設定
電源：3V リチウム電池（CR2025）
寸法：100.5（幅）× 56（高さ）× 16（奥行き）mm
質量：45g（電池別）

＊ 仕様・外観の一部を予告なく変更することがあります。

2. CONTAX フラッシュアダプター SA-2

CONTAX T3 に外部ストロボを接続して使用するための専用アダプターです。特にTLA200と組み合わせると、TLA200をオートストロボとして使用できます。カメラ内蔵ストロボの撮影距離範囲内では内蔵ストロボが発光し、内蔵ストロボ撮影距離範囲を越えると自動的に TLA200 に切り替えて発光します。
また、L タイプのケーブルスイッチを接続することができます。

〈取り付けかた〉

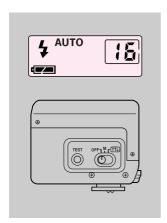
① **フラッシュアダプターをカメラに取り付けます。**
図のようにフラッシュアダプターの取り付けガイドピンをカメラの取り付けガイド穴に差込み、固定ねじをカメラの三脚穴にねじ込みしっかり固定します。

② **ストロボをフラッシュアダプターに取り付けます。**
ストロボをフラッシュアダプターのストロボ取り付け部に止まるまで差込みます。
＊ ストロボの取りはずしかたはストロボ取扱説明書をご覧ください。

次ページへ続く

アダプター用ストラップは図のように取り付けてください。

〈使いかた〉

1.TLA200の場合

● TLA200のズームセレクターを"35"(mm)にセットしてください。

① **カメラのストロボモードを"⚡AUTO"にします。**
被写体の明るさによって、内蔵ストロボまたはTLA200を自動発光します。

② **TLA200の電源(発光モードセレクター)を"TTL"にし、P61のストロボ撮影範囲表を参考にカメラの絞りを設定します。**
設定した絞りに応じて適正露出が得られるように、ストロボ光量をコントロールします。

③ **カメラの内蔵ストロボとTLA200の両方の充電完了を確認してから、シャッターボタンを押します。**
被写体の距離に応じて、内蔵ストロボあるいはTLA200が自動発光します。

カメラファインダー内“ϟ”マークとストロボ発光の関係（自動発光、赤目軽減自動発光、夜景ポートレートモード時）

被写体までの距離	ファインダー内表示	内蔵ストロボ	TLA200
内蔵ストロボが届く距離	“ϟ”点灯	発光	発光しない
内蔵ストロボが届かない距離	“ϟ”点滅	発光しない	発光

- “ϟ AUTO 👁”及び“ϟ AUTO 👁”にすると内蔵ストロボが赤目軽減のためのプリ発光します。
- “ϟ”にすると被写体の明るさと距離によらず内蔵ストロボとTLA200が発光し、内蔵ストロボが届く範囲では光量オーバーになります。
- “ϟ”にすると被写体の明るさと距離によらずTLA200のみが発光します。被写体の明るさに応じて最長16秒までのスローシンクロ撮影になります。
- TLA200以外の当社TLAストロボではTTLモードにしても適正露出になりません。P62「その他のストロボの場合」に従ってマニュアルストロボとしてご使用ください。

〈内蔵ストロボとTLA200ストロボ撮影距離範囲〉

ISO100フィルム使用時、（　）はISO400フィルム使用時

内臓ストロボ撮影範囲　　TLA200ストロボ撮影範囲

露出／絞り ＼ 撮影距離 m	(0.7) 0.35	(2) 1	(4) 2	(6) 3	(8) 4	(10) 5	(12) 6	(14) 7
“P”								
F2.8								
F4								
F5.6								
F8								
F11								
F16								

ストロボ光は届きません

次ページへ続く

2.その他のストロボの場合

クリップオンタイプの汎用ストロボを使用する場合は、内蔵ストロボの撮影距離を越える距離で撮影してください。(内蔵ストロボが届く範囲内では光量オーバーになります。)到達距離については使用するストロボの取扱説明書をご覧下さい。

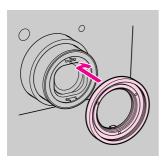
① カメラのストロボモードを“ϟ”にします。内蔵ストロボと取り付けたストロボの両方が発光します。

② カメラの撮影モードを絞り優先モードにします。使用するストロボが外部調光式オートストロボの場合は、そのストロボの調光絞りをセットしてください。使用するストロボがマニュアルストロボの場合は、以下の式で適正露出になるように撮影距離と絞り値を計算して、絞りをセットしてください。

撮影距離(m)＝ガイドナンバー(ISO100時)÷絞り値

③ カメラの内蔵ストロボと取り付けたストロボの充電完了を確認してから、シャッターボタンを押します。

● カメラのストロボモードを“(ϟ)”にすると取り付けたストロボのみが発光します。被写体の明るさに応じて最長16秒までのスローシンクロ撮影になります。

3. その他アクセサリー

〈CONTAX T3 30.5 アダプター（バヨネット式）〉

T3にCONTAX 30.5mmフィルター及び CONTAX TvsII メタルフードを取り付けるためのアダプターです。

- フードのみ、あるいはフィルターのみを取り付けてください。併用すると画面の四隅がケラれます。

〈CONTAX 30.5mm フィルター（ねじ込み式）〉

P（レンズ保護用）、1A、L39（UV）、A2（81B）、B2（82A）の5 種類が用意されています。

〈CONTAX TvsII メタルフード（ねじ込み式）〉

フードは、CONTAX T3 30.5 アダプターにねじ込んで取り付けます。

〈CONTAX Tvs メタルキャップ K-34（かぶせ式）〉

メタル式のフード使用時のキャップ（メタル）です。

〈CONTAX T3 セミハードケース CC-82〉

CONTAX T3 にフィルター 1 枚またはメタルフード、メタルキャップ K-34、データバックを装着して収納することができる速写タイプの牛革製ケースです。

主な仕様

型式	：35mmストロボ内蔵全自動レンズシャッター式AFカメラ
画面サイズ	：24×36mm
レンズ	：カールツァイス ゾナーT＊35mm F2.8（4群6枚）
絞り	：F2.8～16（絞りダイヤルによる）
撮影範囲	：0.35m～∞
シャッター	：ダブルビトウィーン式レンズシャッター
シャッタースピード	：P時：16秒～1/1200秒（絞り開放時最速1/500秒）LT設定時最長180秒
露出制御	：プログラムAE、絞り優先AE
露出連動範囲	：EV－1～EV18（ISO100）
測光方式	：2分割外部測光方式(SPD素子使用）逆光自動ストロボ発光あり
露出補正	：±2EV（1/3ステップ）（CFにより1/2ステップ切替可）
フィルム感度	：自動セット（DX方式）ISO 25～5000に連動 DXフィルム以外はISO 100に設定
ピント合わせ	：オートフォーカス、（モードボタンによりマニュアルフォーカス設定可）
測距方式	：外部パッシブ方式、AF補助光、フォーカスロック機構付
ファインダー型式	：逆ガリレオ式ファインダー、倍率および視野率‥0.5倍　85%(3m)
ファインダー内表示	：撮影範囲枠、近接撮影範囲枠、近接撮影マーク、フォーカスフレーム、露出補正マーク、フォーカス表示、ストロボマーク、シャッタースピード
表示パネル	：ストロボモード表示（自動発光、赤目軽減自動発光、発光禁止、強制発光、夜景ポートレート）、次のモード表示及び設定値表示（露出補正モード及び補正値／セルフタイマーモード及び設定時間／カスタムファンクションモード及び設定項目／ロングタイムモード及び設定時間／マニュアルフォーカスモード及び設定距離）、電池残量表示、フィルムカウンター

フィルム装填	：オートローディング式、（自動空送り機構付）
フィルム巻き上げ	：自動巻き上げ、1コマ撮影
フィルム巻き戻し	：オートリターン／オートストップ機構、途中巻き戻し可能
フィルムカウンター	：表示パネルに表示、自動復元順算式
セルフタイマー	：電子式、作動時間10秒と2秒、途中解除可
ストロボ	：内蔵式ストロボ・フラッシュマチックおよびガイドナンバー制御式 ストロボ撮影距離：P33をご覧ください。
充電時間	：約3秒（常温、新品電池使用、当社撮影基準による）
カスタム機能	：1.フィルム巻き戻し時のフィルム残り　2.レンズの繰り出し時期　3.露出補正の継続時間　4.露出補正幅　5.AFLボタンの機能　6.フォーカスロックの継続時間（AFLボタン）　7.マニュアルフォーカスの継続時間
裏ぶた	：裏ぶた開放ノブによる開閉式
電池	：3Vリチウム電池（CR 2）1本 50%ストロボ使用で24枚撮りフィルム約12本撮影可能（常温、新品電池使用、当社撮影基準による）
写し込み機能	：日付・時刻の写し込み。
寸法　**T3**	：105（幅）×63（高さ）×30.5mm（奥行き）
T3D	：105（幅）×63（高さ）×35.5mm（奥行き）
質量　**T3**	：230g（電池別）
T3D	：235g（電池別）

＊ 仕様·外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。